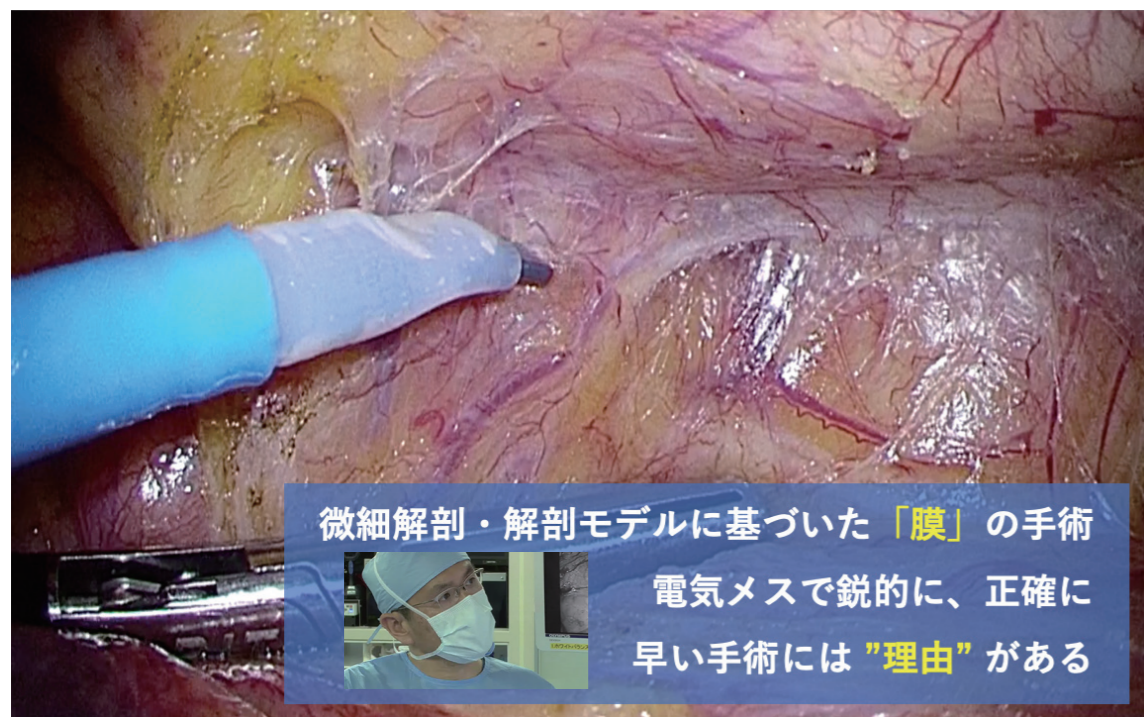


「食道癌手術を極めるために」 国立がん研究センター中央病院での研修が最適な理由

診療科としての人材育成のポイント

- 【メスが持てる外科医の育成】 複雑な縦隔解剖を深く理解し、手術手技を言語化・模倣・創造する
- 【豊かな人間性の育成】 他科・他職種との連携を重視し、チーム医療の中でレジデントの主体性を尊重
- 【Evidence と Experience】 豊富な症例を治療することで教科書では学ぶことのできない臨床経験を養う

手術を体系的に学ぶ



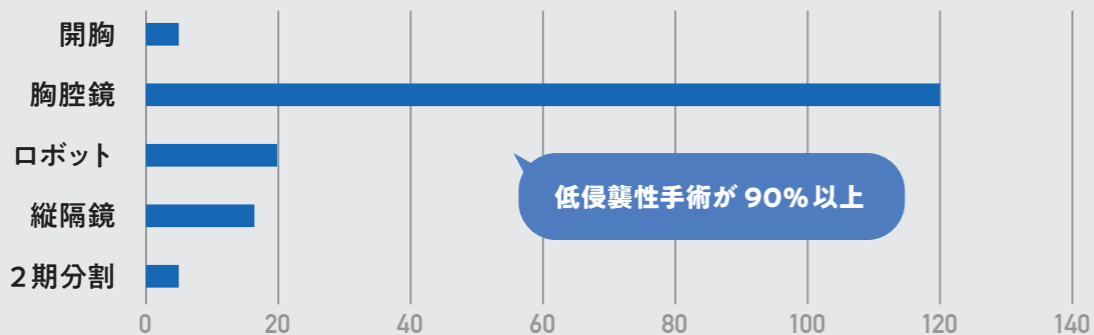
当科が誇る胸腔鏡下手術は、膜に沿った手術にこだわっており、とにかく早く、出血も少ない。

Standardizationされたこの術式を、助手→スコピスト→術者と体系的に学ぶことができる。

体位・ポート配置から、手術の一挙手一投足を言語化し、チーム全体で共有・習熟することを心掛けています。

豊富な執刀のチャンス

2019年度の手術症例の内訳 計 **174** 例 (国内暫定 **1** 位 🏆)



頸部郭清や腹腔鏡補助下胃管再建も、豊富な執刀のチャンスがあり、洗練された手技を身につけることができる。

(がん専門研修医の1年間の執刀件数 胸腔鏡下食道切除: 10例 腹腔鏡下胃管再建: 40例 頸部郭清: 40例 助手: 100例以上)

研修に関するお問い合わせ先

国立がん研究センター 中央病院
食道外科

教育担当：
小熊 潤也

メールアドレス：
joguma@ncc.go.jp

中央病院レジデントプログラム HP
<https://www.ncc.go.jp/jp/ncch/division/cepcd/resident/index.html>

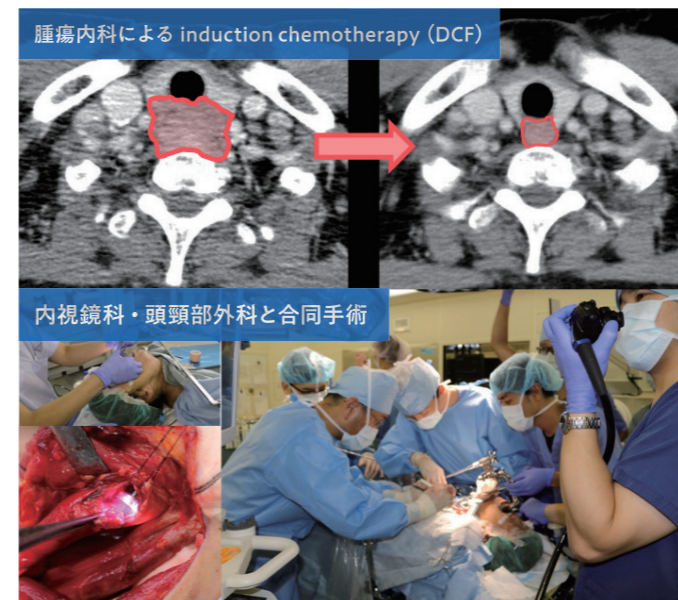


Facebook 中央病院 教育・研修情報
<https://ja-jp.facebook.com/CancerEducation/>



困難症例を通して Experience の蓄積

喉頭温存頸部食道切除



喉頭喉頭食道切除 (大血管置換を伴う)、縦隔気管孔造設



縦隔鏡下食道切除



現役レジデントの声

栗田 Dr.
がん専門研修医

レジデント3年コース→がん専門研修医(現在)です。卒業6年目でがんセンターでの研修を開始しました。国内屈指の症例数を誇る当院では、胸腔鏡手術を週4で学ぶことができ、執刀⇄助手の両方の立場で学びの多い毎日です。4-5年の研修プランの場合、内視鏡外科技術認定医だけでなく、食道外科専門医の取得まで可能です。また連携大学院に入り、学位の取得も可能です。論文執筆もサポートが充実しています。スタッフ、レジデント、コメディカルが ONE TEAM となって食道癌治療をより良くしようという高い志を持っています。

兼松 Dr.
レジデント
2年コース

手術そのもの、そして術後管理が難しい食道外科に興味を持ち、世界最高峰の施設で一流の手術を見てみたい、という思いが強くなり、レジデントに採用して頂きました。当科には様々なバックグラウンドを持つ人が、高いモチベーションを持って全国から集っていますがスタッフの先生方は「一人前の食道外科医を育てよう」という熱意に満ちています。また手術手技のスキルアップと共に、学会発表・論文作成といった学術活動の業績も重ねることができる素晴らしい環境にあります。やる気を存分に発揮し、食道外科の修練に集中できる環境がここにはあります。

鳩山 Dr.
レジデント
短期コース

卒業10年目で研修に来させていただいています。当科の胸腔鏡下手術はロボット手術も含め、とにかく早く、出血が少ないです。その裏側にある理論だったコンセプト、確立された手技、そして様々なTIPSを惜しげもなく教えていただけます。コンセプトの理解→手術動画での予習→手術中に確認→新たな発見→コンセプトを見直しながらの手術動画での復習→...この理想的なサイクルを繰り返しながら、国内随一の手術症例数をもとに日々研鑽できます。世界をリードする、噂に違わぬ圧倒的な手術を間近で体験してみたいはかでしょうか。

レジデントプログラム ■ 食道外科

§ 推奨するコース

●レジデント3年コース

対象者	新専門医制度対象者は基本領域専門医取得済み、もしくは取得見込み(旧専門医制度対象者はその基本領域の専門医もしくは認定医等を取得済み、もしくは取得見込み)で、当院での研修によりサブスペシャリティ専門医を目指すもの。
研修目的	日本内視鏡外科学会技術認定医の取得
研修内容	合計3年間で食道がんに対する外科治療の臨床経験を積みながら、合計10例程度の胸部食道がんに対する胸腔鏡下手術の術者経験をを目指す
研修期間	3年 ※病院の規定に基づきCCM研修を行う
研修の特色	国内屈指のハイボリュームセンターで食道がん外科治療の臨床経験を積み、一般病院では取得が困難な食道がん手術での内視鏡外科学会技術認定医の取得を目指す。コース修了後には同手術の指導的立場となる人材を育成する。
その他 (症例数や手術件数など)	胸部食道がんに対する胸腔鏡下手術を3年間で10例以上を目標とする。

●高度技能医5年コース

対象者	・食道外科専門医の取得を目指すもの。 ・消化器外科専門医を取得している、もしくは取得見込みのもの。
研修目的	日本食道学会食道外科専門医の取得。
研修内容	合計5年間で食道がんに対する外科治療の臨床経験を積みながら、合計20例程度の胸部食道がん手術の術者経験をを目指す。
研修期間	レジデント3年間+がん専門修練医2年間 ※がん専門修練医への採用には再度試験を行う ※病院の規定に基づきCCM研修を行う
研修の特色	国内屈指のハイボリュームセンターで食道がん外科治療の臨床経験を積み、一般病院では取得が困難な食道外科専門医の取得を目指す。コース修了後には、大学病院、一般病院、センター病院での食道外科領域のリーダーとなる人材を育成する。
その他 (症例数や手術件数など)	術者として胸部食道がん手術(胸腔鏡下食道切除+腹腔鏡下胃管再建)を年間10例以上を目標とする

§ 副次的なコース

●レジデント2年コース

対象者	新専門医制度対象者は基本領域専門医取得済み、もしくは取得見込み(旧専門医制度対象者はその基本領域の専門医もしくは認定医等を取得済み、もしくは取得見込み)で、当院での研修によりサブスペシャリティ専門医を目指すもの。
研修目的	日本内視鏡外科学会技術認定医の取得。
研修内容	合計2年間で食道がんに対する外科治療の臨床経験を積みながら、合計10例程度の胸部食道がんに対する胸腔鏡下手術の術者経験をを目指す。
研修期間	2年 ※病院の規定に基づきCCM研修を行う
研修の特色	国内屈指のハイボリュームセンターで食道がん外科治療の臨床経験を積み、一般病院では取得が困難な食道がん手術での内視鏡外科学会技術認定医の取得を目指す。コース修了後には同手術の指導的立場となる人材を育成する
その他 (症例数や手術件数など)	胸部食道がんに対する胸腔鏡下手術を2年間で10例以上を目標とする。

●高度技能医4年コース

対象者	・食道外科専門医の取得を目指すもの。 ・消化器外科専門医を取得している、もしくは取得見込みのもの。
研修目的	日本食道学会食道外科専門医の取得。
研修内容	合計4年間で食道がんに対する外科治療の臨床経験を積みながら、合計20例程度の胸部食道がん手術の術者経験をを目指す。
研修期間	レジデント2年間+がん専門修練医2年間 ※がん専門修練医への採用には再度試験を行う ※病院の規定に基づきCCM研修を行う
研修の特色	国内屈指のハイボリュームセンターで食道がん外科治療の臨床経験を積み、一般病院では取得が困難な食道外科専門医の取得を目指す。コース修了後には、大学病院、一般病院、センター病院での食道外科領域のリーダーとなる人材を育成する。
その他 (症例数や手術件数など)	術者として胸部食道がん手術(胸腔鏡下食道切除+腹腔鏡下胃管再建)を年間10例以上を目標とする。

§ その他のコース

●がん専門修練医コース

対象者	・新専門医制度対象者は基本領域専門医取得済み(旧専門医制度対象者はその基本領域の専門医もしくは認定医等を取得済み、もしくは取得見込み)、かつ、サブスペシャリティ領域専門医取得済み、もしくは取得見込みで、当院での研修により当該領域に特化した修練を目指す者 ・当センターレジデント修了者あるいは同等の経験と学識を有する者
研修目的	日本内視鏡外科学会技術認定医の取得および食道外科領域の指導的人材の育成
研修内容	合計2年間で食道がんに対する外科治療の臨床経験を積みながら、合計15例程度の胸部食道がんに対する胸腔鏡下手術の術者経験をを目指す
研修期間	2年
研修の特色	国内屈指のハイボリュームセンターで食道がん外科治療の臨床経験を積み、一般病院では取得が困難な食道がん手術での内視鏡外科学会技術認定医の取得を目指す。さらに食道外科専門医の取得に必要な臨床経験および手術経験を積む。コース修了後には、大学病院、一般病院、センター病院での食道外科領域のリーダーとなる人材を育成する。
その他 (症例数や手術件数など)	術者として胸部食道がん手術(胸腔鏡下食道切除+腹腔鏡下胃管再建)を年間10例以上を目標とする。

●レジデント短期コース

対象者：希望される期間で、がん研究センターの研修機会を活かしたい方
期間・研修方法：6か月～1年6か月。食道外科研修(他科ローテーションも相談可)
※6か月を超える場合は病院の規定に基づき CCM 研修を行う